

講義名	経済学入門【人間社会学部】			授業形態	
担当教員	森脇 丈子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

わたしたちの生活は経済と深く結びついています。しかしそれらがどのように結びついているのかについては具体的に理解していないことが多いのも事実です。例えば、私たちが購入する商品には、国内で生産されたもの、海外生産で輸入されたもの、海外で生産された部品を使って仕上げられて日本国内で消費されるもの、あるいは、海外で消費されるものなどがあります。また、商品の生産や販売や消費は常に安定的に行われるわけではありません。もし生産や販売や消費が安定的に行われない場合があるとするは、なぜそうなっているのでしょうか。さらに、人工知能(AI)の発展は、私たちの雇用や生活をどのように変化させていくと考えられているのでしょうか。この講義では、経済の動きとそれに影響を与える諸要因に関連する基礎的な知識を身につけていきます。経済ニュースや新聞記事が理解できるようになるため、経済学の基礎的な用語や社会の仕組みを学びましょう。

到達目標

1. 経済の基礎的な用語を理解できるようになる。
2. 経済の基礎的な仕組みを理解できるようになる。
3. 日常的な話題を扱った経済ニュースの内容を理解できるようになる。
4. 国際関係がもたらした日本経済の動きについて理解し、自分の考えを持てるようになる。

提出課題

受講登録者が多数(概ね80名超)の場合には、「小テスト」を実施します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業開始時に、前回の授業に関する質問について、コメントをします。

評価の基準

1. 「授業中の発言・態度」…点数=30点(2点×15回)
2. 「課題」の欄に記入の通り、受講登録者が多数の場合には、小テストを実施する場合があります。この場合、点数配分が変わることがあります。授業中の説明をよく聞いて対応してください。感染症予防に努めてください。マスクの未着用、マスクをきちんと着用していない人等には、退室してもらいます。
3. 定期試験…点数=70点
4. 「授業中の発言・態度」の30点と定期試験の70点の合計点で、評価をします。合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他

目境から、新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事、企業活動や消費者行動などに関する情報を収集しておいてください。第1回目の授業に必ず出席し、授業の進め方、課題の提出方法、評価基準についてしっかりと理解したうえで、受講してください。

関連科目として、次の講義の受講を勧めます。
 ・「生活構造論、消費文化論、消費者問題論」(NGO論、アミューズメント事業論)
 コロナ感染状況によっては、オンライン形式の授業形態に変更する(シラバスの変更を含む)場合があります。大学からの連絡を常にチェックしておいてください。

教科書

・「使用しない」.					
-----------	--	--	--	--	--

参考図書

・会社員が買える。	大内伸哉	文藝春秋	988	9784166612079
・世界100年カレンダー。	河合雅司	朝日新聞出版	891	9784022951403
・武器としての労働法。	佐々木亮	KADOKAWA	1650	9784460469728

その他

授業で使用するプリントは、教室で配布します。
 参考文献
 ・吉川徹(2018)『日本の分断 切り離される非大卒若者たち』。光文社新書
 ・内田樹、藤山浩、手塚龍、平川克美(2018)『農業を株式会社化する』という無理。これからの農業論。家の光協会
 ・塚崎公義(2015)『なにが、そうなの? 経済入門』。日本経済新聞出版社。1,500円+税。
 ・ダン・アリエーリ(2013)『予想通りに不合理 行動経済学が明かす『あなた』がそれを運ぶわけ』。早川書房
 ・渡辺理人(2015)『ワタシの初任給はなぜ日銀より高いのか?』。旬報社
 ・朱野綿子(2018)『わたし、定時で帰ります。』。新潮社

その他の参考文献は、授業中に適宜紹介します。

授業計画

1. ガイダンス。経済学は何を対象としているか
2. 日本の人口構造(1) 人口構造の変化、都市への人口集中、少子高齢化
3. 日本の人口構造(2) 世界構造、再移民、世代間の支え合い
4. 統計消費と貯蓄 平均所得、全給付金の平均額、所得の格差
5. 格差問題 貧困率、子どもの貧困、格差
6. 雇用と失業 労働力人口、失業率、労働力不足、女性の就業率、増加する非正規雇用
7. ロボット、AI、ロボットの活用と民生、AIと雇用
8. 企業の姿 事務所の状況、国際化する日本企業、日本の経営の特徴
9. 貿易 貿易収支の推移、輸出入品目の変化、主な貿易相手国、日本の国際収支
10. エネルギー問題 日本のエネルギー事情 エネルギー自給率、電力需要
11. 食料問題 国内の食料消費、食料自給率、農業、食糧安全保障
12. 物価、円高・円安
13. 地価、地産と地産
14. コロナ禍の雇用と生活
15. まとめと定期試験について

戦後の日本経済(復興期、高度経済成長期)については、「生活構造論」の授業で扱います。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア:PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> ウ:ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ:グループワーク
<input type="checkbox"/> オ:プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ:実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業終了時に、予習について説明します。次回の授業内容に関連する基礎的な語句や情報を調べる等の予習を、授業開始時までに済ませておいてください(作業時間:2時間程度)。
 その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基盤になります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点をまとめておいてください。(作業時間:2時間程度)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の発展や人びとの暮らしを改善することができ、社会貢献・産学連携、インターナショナルなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面の授業中に多くの質問を出します。受講者は、自分の意見を述べてください。

実務経験の有無及び活用

備考

感染症予防に努めてください。マスクの着用のない人、きちんとマスクを着用していない人等には、退室してもらいます。第1回目の授業に必ず出席し、授業方法、成績評価方法について、しっかりと理解してください。授業ではスマホをどって、理解を深めてください(スマホによるPTT等の撮影は禁止します)。授業中の議論や発言への拍手や入り方を禁止します。スマホは教員の指示がある場合に使用してください。授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正が発生する可能性があります。大学からの連絡をしっかりとチェックしてください。